

兄弟との和解

マタイによる福音書五章21〜32節

(木)

その供え物を祭壇の前に置き、まず行って、きょうだいと仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。(24)

もし誰かと仲違いしているときは、最も大切な礼拝を後回しにして、和解を先にしなさいと勧められています。神に罪の赦しを願うために祭壇に供え物を献げようとしながら、内心では兄弟を赦すことが出来ないとしたなら、それは真の礼拝ではないからです。「我らに罪を犯す者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ」と祈るように、神による赦しと人の赦しはつながっています。しかも、「そこで思い出したなら」(23)とあるように、礼拝とは、それまで気づかなかつた罪が思い出される場でもあります。私たちは他の人との和解を先延ばししようとするところがあります。プライドが強すぎて、「ごめんなさい」の一言が言えないのです。しかし、本当に幸いな人生とは、最も身近にいる人を赦し、また赦されるところから始まります。仲直りが必要な人がいるでしょうか。